



かさおか



『年の初めに思うこと』

会長の奮闘記 その8

「10年ひと昔」という言葉がありますが、10年も過ぎると、世の中の人や物などが移り変わってしまふ」という意味で、現在は「3年ひと昔」あるいは「1年ひと昔」の時代とも言われているようです。さて、平成24年4月にまちづくり協議会が発足して9年目を迎えますが、新型コロナウイルスの出現によって地域の交流活動は大きく様変わりしています。そして、今後の長期化が懸念されていることから、「3密の回避」「マスクの着用」「手指の消毒」など、基本的な感染対策を実施しながら本来の活動に近づけて行く努力が求められ、皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

こうした中、仲間との思いがけない別れもあつて次第にマンパワーの不足も感じており、各団体ともに役員の高齢化・人材不足が課題で、地域全体で考えて行かなければならないものと思っております。

ところで、3年目となった駅前イルミネーションも1月31日に無事役目を終えることが出来ました。

新型コロナウイルスの影響を心配しましたが、高校生の熱心な取り組みで駅前広場が輝き、市民のみなさんに笑顔と安らぎをお届けできたことは、関係者の一人として大変嬉しく思っており、今後とも地域を明るくする活動にご声援をお願いいたします。

2月の行事予定

- 2月3日(水) 18:30～
令和3年第1回総務部会を予定
- 2月14日(日)
9:00～第1回役員会を予定
10:00～防災学習会を予定
会場:笠岡市中央公民館



『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所: 笠岡市笠岡2627番地
「井戸会館」内
電話: 63-5949
Fax: 75-0101
E-mail: zukuri2@mx1.kcv.ne.jp
開館日: 月・水・金曜日の
14時～17時まで

「笠岡町の地名」その 10

古城山

【稲富(いなとみ)稲荷宮】の続き

西大島村(笠岡市)の安福氏、島本氏は氏人の何人かが村上氏の家臣であったようで特別に信仰している。

末社にお塚に準じた花津女・五社・高倉各稲荷と沼名前神社があり、社務所の背後の荒神祠は、城主村上景広が出陣の前に拝んだという由緒がある。拝殿の作事の見所は彫刻と彩色で、近郊に類がないといわれる。

(注=真言宗巖蔵寺は今はない。古城山の南東の日当たりのよい中腹にあった。宗祇・芭蕉の碑の横の小径を平たんに南に歩いて、藪を通り越すと道下にガンゾウ寺が背を向けて建っていた。石段を少し降りると、碑と墓石があり、広場があった。無住であった。下はガケであり、岩へ浪が押し寄せていた。この上は傾斜のきつい砂地で、近くの本で首つり自殺をした人がいた。その上は売店に通じる。戦争末期から古城山の南側の岩の削り取りが始まり、発破が響き、土砂はトロッコですぐ沖へ捨てられた。そして、陶山義高が再興したと伝承する寺は壊され、残ったものは伏越の地福寺へ引き取られた)。

【龍(りゅう)の観音】巖蔵寺にかかわる観音堂があったらしく、天保期の書に出てくる。この観音は西浜の漁師が信仰していたが、漁師がヨウスナに集団移住させられて衰え、天保期でさえ形ばかりが残っていたのであろう。今は何も残っていない。

【聖観音堂】もと伏越の真言宗地福寺にあった石造仏で、古城山下に住んだ大工の棟梁石川氏が稲富稲荷宮の東下に堂をしつらえて移した。その後(昭和の初期)火災にかかり本尊が割れたが、そのまま祀られている。

【大仁力(おにりき)の碑】山頂の公園の中心にある。末新田の旧敷島紡績時計台の西側に住んでいた富士野某はあだ名を大仁力といった。老年白髪が印象的で、城山の史跡宣伝に努めた功績でこの碑が建った。

【対仙亭】明治七年六月、小田県庁は遊館所を設置して城山沖の風景を賞でた。そこを対仙亭と名づけた。老朽倒壊後、再建されなかった。古城山南西部にあった。



大仁力の碑



休石



芭蕉句碑

行政区分による現在の地番		
本町	2245	～ 2260-2
住吉	2261	～ 2264-23
本町	2265-1	～ 2330-2
伏越	2338-1	～ 2367
住吉	2369-1	～ 2481-18



【旧金刀比羅宮】国道2号線トンネルの西口の辺りに、かつて数十段の急な石段があり、切り切った狭い場所に金刀比羅宮があった。沖仲仕東浜組の信心が厚かったので、社は東浜組の寄場の東に移された。華表は額石だけ残して、本体は笠岡の堂上地内秋葉宮の前に立っている。

【休石・芭蕉句碑】古城山には石碑・記念碑が数多いが、次に古い二つを掲げよう。

飯尾宗祇(1421～1502)の休石とその句碑「山松のかげやうきみる夏の海」は寛保二年(1742)江草好周(唐葵庵南江)の建てたもので、句碑銘では岡山県下最古である。碑には宗祇が明応三年(1494)来賓とあるが、それは「新撰菟玖波集(注)」から推察したもので、実際は文明十二年(1480)=初篇老葉(わくらば)による=来笠の時とされている。

芭蕉句碑「世の中はさらに宗祇(祇)のやどり哉」は、安永八年(1779)丸山株周(もとかね)によって建てられた。=笠岡史談第17・18号参照

～次号に続く～

【参考文献】笠岡史談「旧笠岡村地名考」岩山保志(注)新撰菟玖波集(しんせんつくばしゅう)室町時代の連歌集。宗祇を中心に、兼載、肖柏、宗長らが参加した撰集、全20巻

「編集後記」

正月明け、句碑の写真を求めて古城山に登った。6匹のサルが歓迎してくれたが、コロナの心配はないのだろうか？
病魔退散！厄病(コロナ)滅却！
平穏無事な世の中を願っています。

I・M

☆令和2年火災発生状況

()は元年中

笠岡市 47件(22件)

うち笠岡 6件(2件)

建物火災 4件(2件)

林野火災 0件(0件)

その他火災 2件(0件)

戸締り
用心!!
火の
用心!!

